

なぜ腎代替療法が必要なの？

慢性腎臓病（CKD）が進んで腎不全になると、体内の水分や老廃物のバランスが崩れ、さまざまな体の不調がはっきりと現れてきます。

腎臓の機能

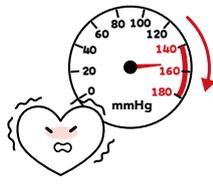
腎不全のとき起こる異常の例

ナトリウムと水分の

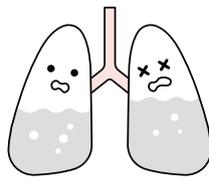
排泄



浮腫（むくみ）

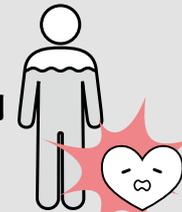


高血圧



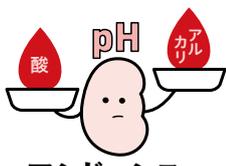
肺水腫（肺に水がたまる）

体液過剰
心不全



酸・電解質の

排泄



アシドーシス
（体に酸がたまる）



高カリウム血症



高リン血症

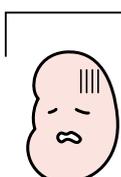
高カリウム血症
強い酸血症



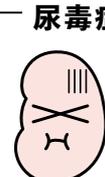
病気が進んで

老廃物の

排泄



気分不快



食欲低下



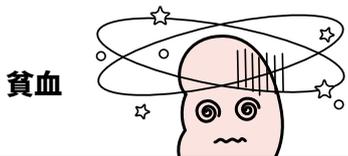
嘔吐・意識障害

高度の
尿毒症病状



造血ホルモン

産生



貧血

これらを薬でコントロールできなくなる

腎臓の機能が**10%**以下になる

透析導入や移植を検討する目安

ビタミンD

活性化



低カルシウム血症、
骨の量・質の低下

一般社団法人日本腎臓学会『腎不全 治療選択とその実際 2024年版』を基に作成

腎代替療法とは、これらの病状を抑え、
仕事や学業を続けたり、日常生活を送るための療法です。

監修

長澤 将 東北大学病院 腎高血圧内分泌科 講師

大武 陽一 たけお内科クリニック からだと心の診療所 院長

運営

一般社団法人ピーベック

制作

腎臓病情報サイト「じんラボ」



みんなで作ろう、これからの医療

with Kidney プロジェクト

<https://www.jinlab.jp/withkidney/>

患者と医療者がつくった腎臓病とのつきあい方ガイド



<https://peecc.jp/>



じんラボ

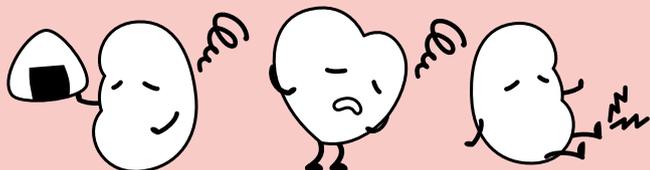
腎臓病に関わる人の幸せのための

<https://jinlab.jp/>



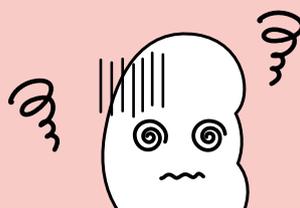
腎代替療法を選ぶ前に

腎臓の働きを肩代わりする
腎代替療法が早めに必要となる
場合もあります。



薬でコントロールできない病状などがある場合です。

末期腎不全で
腎代替療法を受けないと、
生命が危険な状態となります。



水分や塩分、老廃物などが
排泄できなくなり、心不全
や尿毒症の病状が全身に現
れます。

腎代替療法は
大きく3つの選択肢があり、
お互いに相補的な役割があります。



治療の選択は
医学的条件だけでなく、
ライフスタイルなども考慮します。



腎代替療法は何を選択する
場合でも事前の準備が必要です。



腎代替療法はいずれも生活の中で
習慣化して続ける治療です。



早いうちから情報を集めたり、身近な人や医療者と話し合ったりして、
落ち着いた状態で治療を開始できるようにしておきましょう。

監修

長澤 将 東北大学病院 腎高血圧内分泌科 講師

大武 陽一 たけお内科クリニック からだと心の診療所 院長

運営

一般社団法人ピーベック

制作

腎臓病情報サイト「じんラボ」



みんなでつくる、これからの医療

with Kidney プロジェクト

<https://www.jinlab.jp/withkidney/>

患者と医療者がつくった腎臓病とのつきあい方ガイド

<https://ppecc.jp/>

じんラボ

腎臓病に関わる人の幸せのための

<https://jinlab.jp/>